

ななくり

The goal of our education is to clear 70 points in total

田迎小学校 学校だより

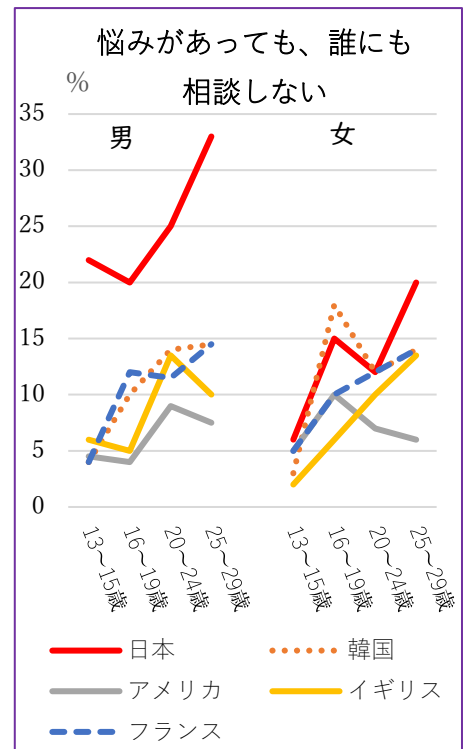
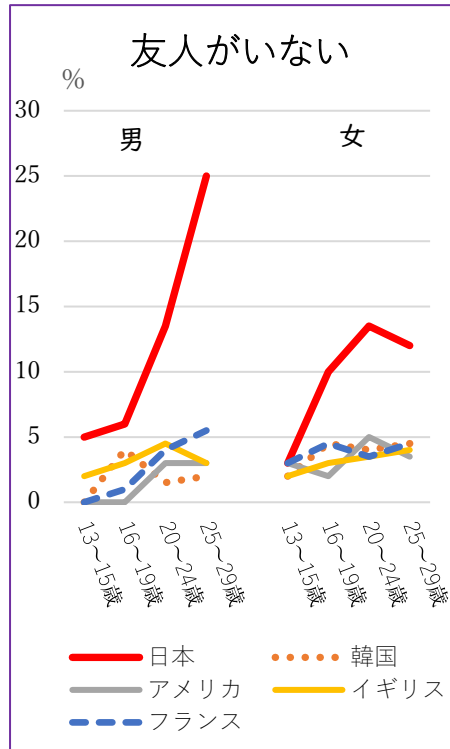
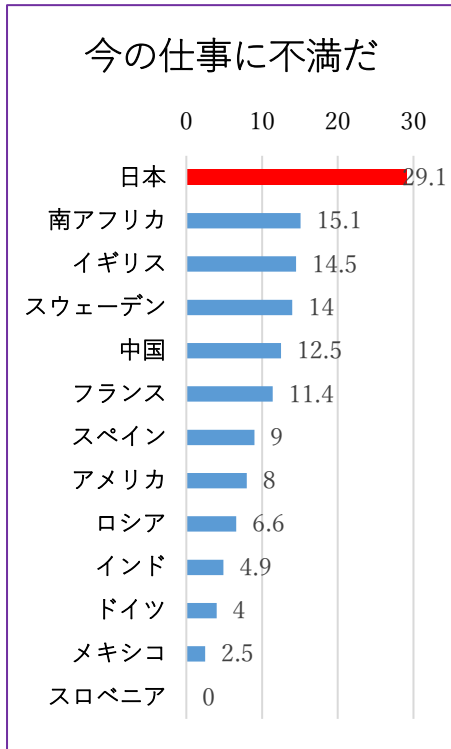
文責 藤本

第 8 号

2021.12.16



トーナメントとリーグ戦



10月31日のハロウィンの夜、東京の京王線の車内で放火・刺傷事件が起きました。このニュースで犯人の男性は「仕事や友人関係がうまくいかず…」という身勝手な供述をしています。

上記の3つのグラフは教育社会学者の舞田敏彦さんが作成したのですが、世相をよく表しています。

(Work Orientations IV-ISSP 2015・内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」2018)

特に、日本の若い男性は「今の仕事に不満」が多く「友人がいない」。そのため「悩みがあっても相談しない」割合が高く、きわめて深刻な状態のようです。

コロナ禍が2年続き、リモート授業・勤務をはじめとした対面しない活動が広がりつつあります。物理的なコスト(時間・距離・費用など)は、下がることから利点も大きいのですが、精神的なベネフィット(利益・恩恵)も下がっているように思います。

私や保護者のみなさんの小学校時代は、リモートの「り」の字もなかったでしょう。授業を受けるのも、友達と遊ぶのもすべて「対面」が当たり前でした。

不便なこともたくさんありましたが、救われたこともたくさんあります。

例えば、学校のことはすべて学校で完結できました。自宅に入ってしまうと、もう家の中だけの世界に入ることができました。今は、どうでしょう。

SNSやネット連結のゲームなど、家にも学校の

人間関係を引きずったり、顔も見ることがない人とトラブルになったりと、完全にオフになることが難しくなっています。

同時に、対面での人間関係をネット上のルールでやっていると「気に入らなかつたら(連絡を)切る」といった【一発勝負型】になっていきます。

結果、一度失敗したり、一度嫌なことがあつたりしただけで友達関係を修復することができない人間になってしまうというわけです。

人間関係は、一度失敗したら終わる「トーナメント戦」ではなく、**何度もトライする「リーグ戦」であるべきです。**

上記のグラフにある「友人、相談」が困難であると回答した若者たちがどちらのタイプで人間関係を作ってきたかは明白です。

「イイね!」を欲しがると承認欲求が高いわりに失敗を異常に怖がる正答主義、そして、何でも人のせいにする他罰主義…。

私たちは、子供たちをそんな若者にしたくありません。**たくましい大人に、自分で幸せを築ける大人にしたい**と思います。学校でも家庭でも、子供の周りの大人は「リーグ戦」方式で子どもに接していくべきではないでしょうか。

どんなに失敗しても、恥をかいても…へこたれず、頑張る子どもの応援団になりたいものです。